

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2001-524563(P2001-524563A)

【公表日】平成13年12月4日(2001.12.4)

【出願番号】特願2000-522153(P2000-522153)

【国際特許分類】

C 08 L	23/16	(2006.01)
C 08 J	5/00	(2006.01)
C 08 L	21/00	(2006.01)
C 08 L	23/10	(2006.01)

【F I】

C 08 L	23/16	
C 08 J	5/00	C E Q
C 08 L	21/00	
C 08 L	23/10	

【手続補正書】

【提出日】平成17年8月10日(2005.8.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

約20～約85重量部のゴム及び約15～約80重量部の半結晶性ポリプロピレンであって、前記重量部が前記ゴムと前記ポリプロピレンの100重量部に基づくものであるもの、及びピーク溶融温度が約55から約110である熱可塑性ランダムエチレンコポリマー、を含む熱可塑性加硫ゴム組成物であって、前記ポリプロピレンの前記ランダムエチレンコポリマーに対する重量比率が約100：5～100：150であり、前記ランダムエチレンコポリマーが、前記ランダムエチレンコポリマーの重量に基づいて、約70～約95重量%のエチレンからの繰返し単位及び約5～約30重量%の1種以上のその他のエチレン性不飽和モノマーからの繰返し単位を含み、前記ゴムが、エチレン-プロピレン-ジエンゴム、天然ゴム、ブチルゴム、ハロブチルゴム、p-アルキルスチレンと少なくとも1種の4～7個の炭素原子を有するイソモノオレフィンのハロゲン化ゴムコポリマー、4～8個の炭素原子を有する共役ジエンのゴムホモポリマー、又は4～8個の炭素原子を有する少なくとも1種の共役ジエンからの繰返し単位を少なくとも50重量%有するゴムコポリマー、又はそれらの組合せを含み、前記熱可塑性加硫組成物の残留伸び(tension set)がASTM D412で測定して約50%以下である、熱可塑性加硫ゴム組成物。

【請求項2】

前記ゴムが、少なくとも前記半結晶性ポリプロピレンの存在下に動的に加硫されたものであり、それによって前記熱可塑性加硫ゴムが形成された、請求項1の組成物。

【請求項3】

前記ランダムエチレンコポリマーが、約70～約90重量%のエチレンからの繰返し単位と約10～約30重量%の3～8個の炭素原子を有する少なくとも1種のモノオレフィンからの繰返し単位を含む、請求項1の組成物。